

巻頭言



チタン・特殊ステンレス特集号 発刊にあたって

細貝 清司*

新日鐵住金株式会社のチタン事業、特殊ステンレス事業は、昨年10月の新日鐵住金株式会社の発足に併せて、「チタン・特殊ステンレス事業部」として組織編成がなされ、新たな歩みを始めました。チタンの製造開始は旧新日本製鐵が1984年、旧住友金属工業が1968年、特殊ステンレス鋼の製造開始は1934年であり、それぞれの事業はこれまで幾多の変遷を経てきましたが、着実に事業基盤を拡大・強化して参りました。このような事業基盤を構築し得たことは、社内外関係先の皆様のご支援とご指導によるものであり、この場をお借りして御礼申し上げます。

また、チタンは化学・電力・海水淡水化プラント・苛性ソーダ電解設備といった一般産業分野から航空機の機体・エンジン部材まで、特殊ステンレス鋼は自動車用ガスケット材料から建材・土木分野、電子材料となる純ニッケルまで用途・需要分野が広がっていることに加え、扱う品種も、薄板・厚板・溶接管・棒線・形鋼と多岐にわたっております。このように様々な用途、分野に、あらゆる形状の製品を提供することができたのは、ひとえに鉄で培われた当社の技術力によるものであり、その技術力を創造・伝承する現場である製造部門、研究部門のたゆまぬ努力の賜物と確信しております。

まず、チタンは工業化されて60余年の若い金属で、軽量、高耐食性、高比強度、生体適合性等の特性を持つ、用途・需要規模において大きな可能性を秘めた金属です。今後、更にチタン事業を成長させるために当社は、①新規用途開拓による市場拡大努力、②一般産業分野において競合メーカーを凌駕する競争力の維持・向上、③合金チタンによる航空機分野への本格参入、④更なる競争力向上のための革新的チタン製造プロセスの探索、⑤素材メーカーとの一貫での最適製造への取り組み、資源高騰リスクへの対応等、グローバルで多岐に亘る課題に取り組む必要があります。その課題解決には社内の技術・研究部門はもとより、社外関係先の皆様の強力なサポートが必要となります。

次に、特殊ステンレス鋼においては、2003年の新日鐵住金ステンレス株式会社発足を境に、高機能・高付加価値分野に特化した商品メニューでの事業を展開して参りました。当事業は、規模こそ3万トン／年ではありますが、先進的な独自鋼種の開発が可能に一

* チタン・特殊ステンレス事業部長

貫製造・研究体制をベースに、ユーザーニーズへの細やかな対応を継続した結果、自動車ガスケット用ばね材・高耐熱鋼・クラッド・燃料電池用箔等、さまざまなオンリーワン製品を開発いたしました。今後も、当社は独自製品の研究開発に取り組んで参りますが、統合を契機として、新日鐵住金ステンレス株式会社や新日鐵住金マテリアルズ株式会社との相互協力を推進、グループ全体でのシナジー効果の発揮、競争力強化に努める所存です。

以上のように、チタン・特殊ステンレス鋼は共に素材としての可能性が大きな金属ですが、その可能性を現実とするためには、更なる新規用途開拓の推進、新製品の開発、コスト削減が不可欠であり、引き続き製造部門、研究部門からのバックアップが重要となります。今回、チタン・特殊ステンレス事業における用途開拓、研究開発への取り組みを発信する貴重な機会をいただきました。改めて両金属の魅力をご認識いただけるのではないかと考えておりますので、社内外関係先の皆様におかれましては、より一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。